

第3章 第1次から第3次地域福祉活動計画の事業成果

1. 第1次名張市地域福祉活動計画

【平成19(2007)年度～平成23(2011)年度】

「人」と「地域」が「想い」でつながる名張のまちへ

～誰もが安心して暮らせる心豊かなまちをめざして～

○小地域福祉活動の推進

- ・ 住民、区、自治会、ボランティアなどの様々な主体が地域福祉の推進を図り、各地区(14地区)の活動を支援するため地区担当制を導入し、情報提供や活動相談などに取り組みました。
- ・ 住民自身が生活課題に取り組む活動を組織化することや地域福祉の理解、協力の基礎づくりを図ることができました。
- ・ 地区社協が中心となり、共通課題の解決に向けての協働がすすみ、サロン事業や配食事業につながりました。
- ・ 平成21(2009)年度より、「名張市地域づくり組織条例」に基づき「地域づくり組織」が整備され、地区社協の在り方を見直し、地区社協への組織支援から各地域づくり組織での福祉実践活動への支援に移行しました。

○地域福祉権利擁護事業(なばり地域権利擁護センター)

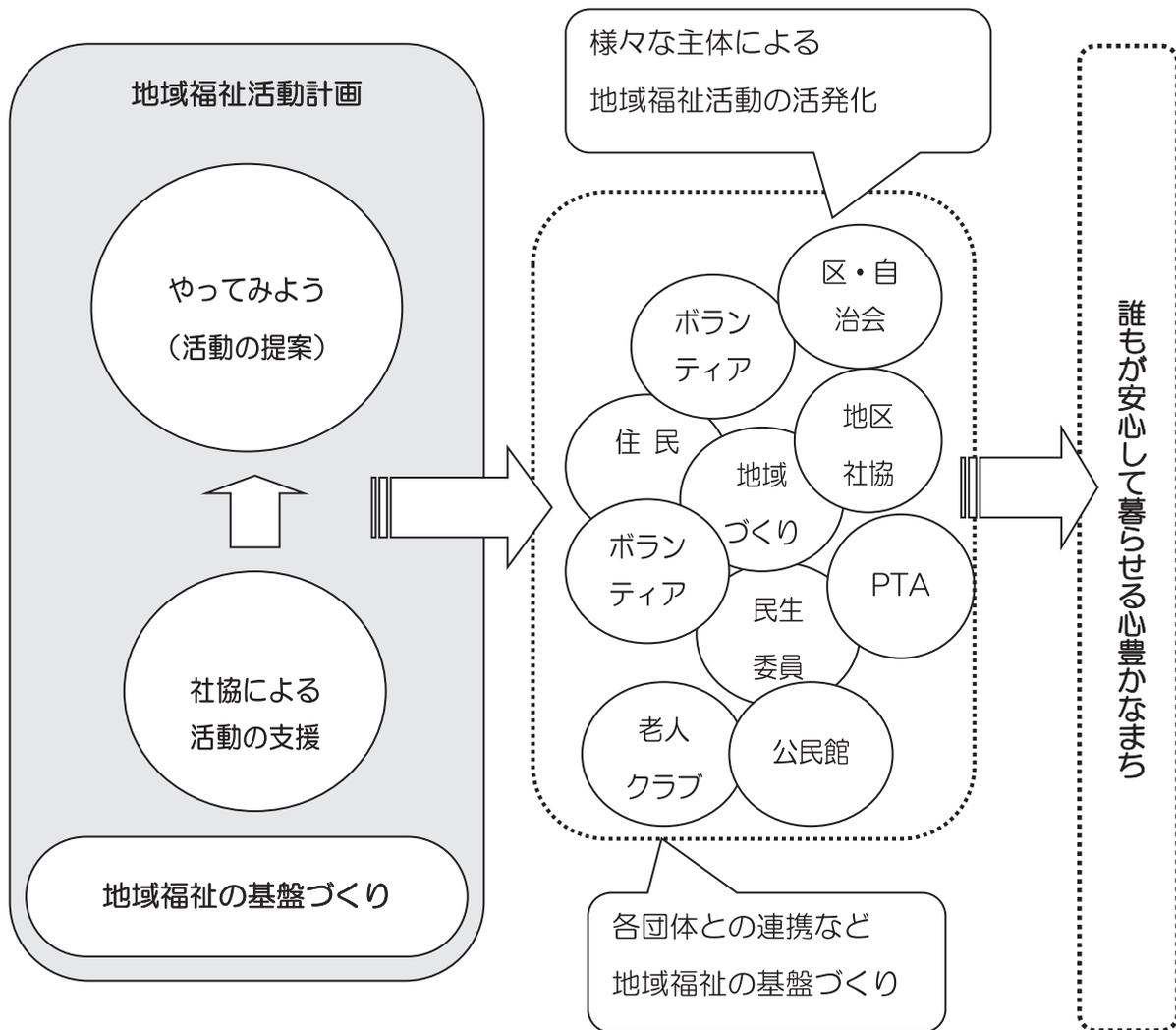
- ・ 平成20(2008)年4月から三重県社協より委託を受け、「なばり地域権利擁護センター」を開設し、日常生活自立支援事業に取り組みました。
- ・ 「なばり地域権利擁護センター」では、住民からの債務整理や成年後見制度申立支援、遺言作成や任意後見制度などに関する相談支援に取り組みました。

○自立生活サポート事業

- ・ 厚生労働省の「セーフティネット支援対策事業」のモデル事業として創設された「自立生活サポート事業」を基盤に、生活保護受給ケースや生活困窮者に対する支援に取り組み、名張市社会福祉事務所やハローワークの就労支援員との協働を進めました。

○地域後見(法人後見)事業

- ・ 名張市における成年後見制度の今後の在り方を検討することを目的に、「名張市における成年後見制度の今後を考える検討委員会(以下:検討委員会)」を設置し、利用の実態の把握につとめました。
- ・ 検討委員会によるアンケート調査により、家族関係の希薄な方や資産の少ない方への支援の必要性が明らかになり、本会での法人後見受任の内部体制の整備を進め、地域におけるセーフティネットとしての法人後見事業を実施しました。



2. 第2次名張市地域福祉活動計画

【平成24(2012)年度～平成26(2014)年度】

“つながり”を実感できる暮らし創り

～自立と選択(自律)が難しい人への支援～

～地域や人とのつながりの薄い人への支援～

○生活支援体制整備支援事業の実施(地域のささえあいのしくみづくり)

- ・ 社会福祉制度の対象とならないような生活課題について、地域の有償ボランティアや配食事業、サロン事業等により、各地域づくり組織単位でのささえあいの活動支援に取り組みました。
- ・ 地域担当者の内1名を生活支援コーディネーターとして位置づけ、地域ごとの支援体制を検討するためモデル地区を選定し、住民の方と一緒にニーズ調査と資源開発を行いました。
- ・ 具体的には、有償ボランティアの仕組みを構築するため、サービスメニューや料金設定、提供方法などを検討し、サロンや配食サービスをはじめとする地域資源を生かした取組をすすめました。
- ・ 地域ささえあい活動連絡会議を設置し、地域のささえあいの仕組みの実施上の課題や情報共有を進めました。

○救急医療情報キットによる安心ネットワーク事業の実施

- ・ 生活や健康面に不安を抱えながら在宅生活を送る方に対し、名張市民生委員児童委員協議会連合会や名張市と連携し救急医療情報キットの配布・更新を行い、身近な地域での見守り・ささえあい活動となる「救急医療情報キットによる安心ネットワーク事業」に取り組みました。
- ・ 救急医療情報キットは、誰もが気軽に取り組むことができるツールであり、現在は、高齢者だけでなく、小児・出産期の対象者や一人暮らしの方の安心のツールとして広がりを見せています。

○ボランティアセンター運営委員会の設置

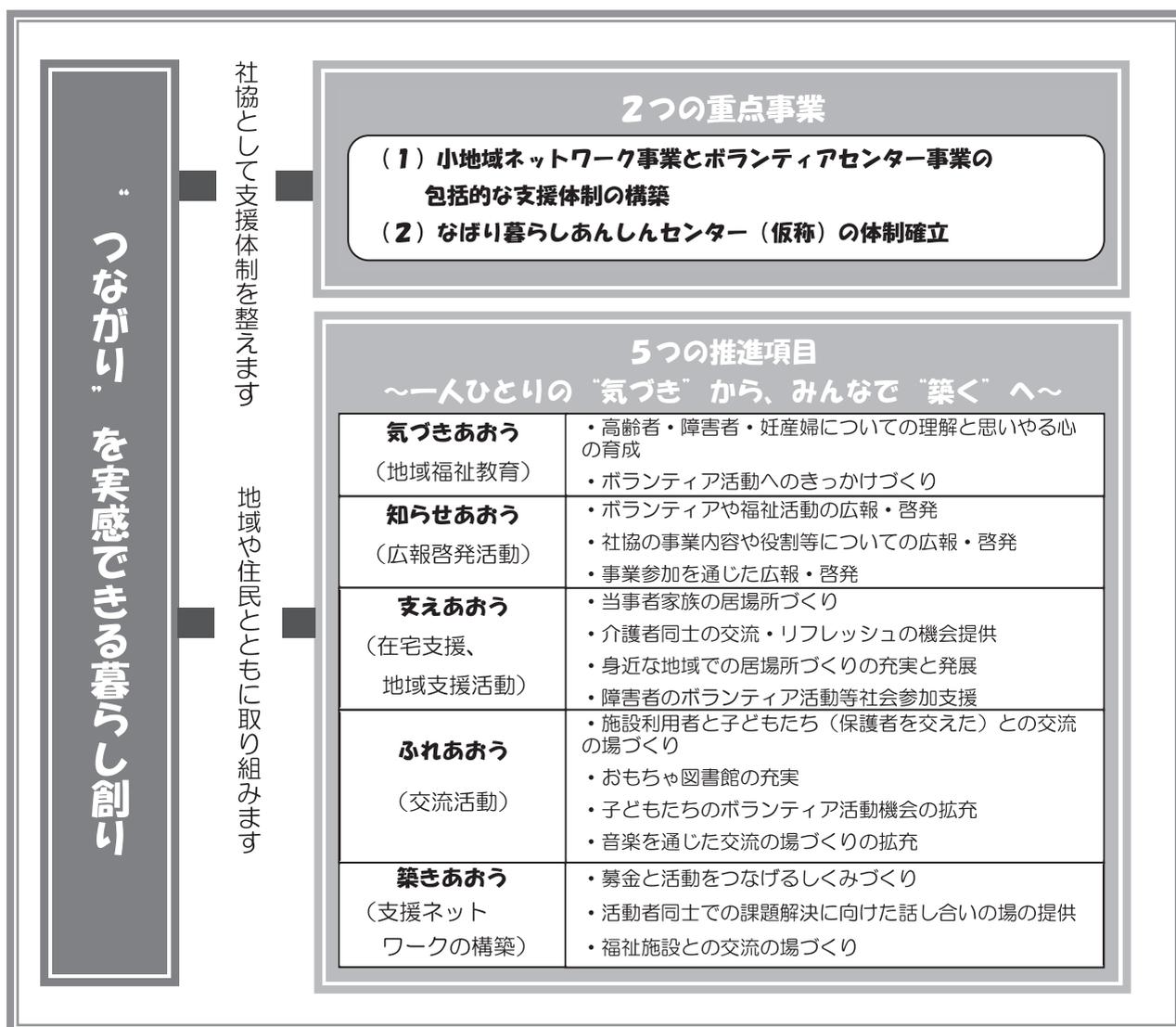
- ・ 福祉やボランティア・市民活動の概念や、それを取り巻く社会が急速に移り変わる中、ボランティアセンターに運営委員会を設置し、ボランティアの充実発展を目指した協議の場としました。

○福祉まちづくりセンターの開設

- ・ ボランティア活動を推進し、「人」と「人」を繋げる支援を推進するための、支援拠点として「福祉まちづくりセンター」をリバーナ3階に開設しました。
- ・ 登録ボランティアの中から個別支援可能な個人や団体を把握し、オリエンテーションの実施や将来的な活動に向けた意見交換の場を提供し、ボランティアを必要とする人とのコーディネートに取り組みました。

○「なばり暮らしあんしんセンター」としての体制整備

- ・ 様々な生活課題を抱える住民が、安心して、自分らしく、暮らせるように、本会が実施している個人を対象とした各種相談、支援事業を整理統合し、制度横断的な支援を実施できる体制として「なばり暮らしあんしんセンター」を開設しました。



3. 第3次名張市地域福祉活動計画

【平成27(2015)年度～平成31(2019)年度】

誰もが住み慣れたまちで安心して 自分らしく暮らせる福祉のまちづくり ～ともに支えあう 暮らしやすい地域づくり～

- ・身近な地域で支えあう暮らし支援活動の推進
- ・生き活きと活躍する担い手の育成
- ・地域福祉ですすめる生活困窮者支援

○くらし応援ネットワーク事業

- ・地域住民や福祉関係団体、行政や地域福祉を進める関係機関等のネットワークと、名張市において公益的な取組みを実施しようとする社会福祉法人とが身近な福祉ニーズを把握、共有し、制度横断的に解決へ向けて取り組む「くらし応援ネットワーク事業」を実施しました。
- ・平成28(2016)年度には、名張市における地域貢献活動を共に推進するための「名張市社会福祉法人連絡会」を設置しました。
- ・平成29(2017)年度には、地域福祉活動を更に充実させることを目的に、市内15地区において「地域福祉推進懇談会」を開催し、各地域づくりが取り組む活動への協力体制の強化を図りました。
- ・生活する上で、ちょっとした暮らしの困りごとを地域で助け合う「地域ささえあい活動」の活性化や新たな地域での実践につながる支援を行い、令和元(2019)年度末には10団体(地域)が実施しています。

○災害ボランティアセンター

- ・名張市民の防災に対する意識啓発、知識、技能の習得や向上を図るため、地域、職場等での防災活動(平常時、災害時)の中核となる人材、また災害時には、地域の声を拾い、災害ボランティアセンターとのつなぎ役としての活動が期待できる「防災ボランティア」を養成しました。
- ・名張市、みえ防災コーディネーター連絡会名張支部との地域防災にかかる連携協議をすすめ、災害ボランティア設置運営マニュアル作成プロジェクト会議を設置し、マニュアル案を作成するとともに、災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施しました。

○生活困窮者自立支援事業

- ・平成27(2015)年4月から本格的に生活困窮者支援が始まり、その相談体制の強化を図るとともに、関連事業(就労準備支援事業、家計改善支援事業)を一体的に取り組み、地域におけるセーフティネット体制を整備しました。
- ・地域に対する働きかけとして、名張市社会福祉事務所や関係機関との連携を進め、社会資源の開発等を行い、就労体験協力事業所の拡大に取り組み、事業参加者の支援ニーズに応えられるようになりました。
- ・本会固有の地域福祉金庫や三重県社協の実施する緊急食糧提供事業などを活用し、制度だけでは対応できないニーズにも応えられるよう支援メニューの拡大に取り組みました。



— 災害ボランティアセンター設置運営訓練 —